

Canon

EF レンズ

EF35mm F2 IS USM

使用説明書

キャノン製品のお買い上げ誠にありがとうございます。

EF35mm F2 IS USM は、手ブレ補正機能を備えた、高画質な広角系単焦点レンズです。

- IS は Image Stabilizer（手ブレ補正機能）の略称です。
- USM は Ultrasonic Motor（超音波モーター）の略称です。

△ 安全上のご注意

- レンズ、またはレンズを付けた一眼レフカメラで、太陽や強い光源を直接見ないようにしてください。視力障害の原因となります。特に、レンズ単体で直接太陽をのぞかないでください。失明の原因になります。
- レンズ、またはレンズを付けた一眼レフカメラを日光の下にレンズキャップを付けないまま放置しないでください。太陽の光が焦点を結び、火災の原因となることがあります。

取り扱い上のご注意

- レンズを寒いところから暖かいところに移すと、レンズの外部や内部に水滴が付着（結露）することがあります。そのようなときは、事前にレンズをビニール袋に入れて、周囲の温度になじませてから、取り出してください。また、暖かいところから寒いところに移すときも、同様にしてください。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。レンズの故障の原因になることがありますので、このような場所にレンズを放置しないでください。

本文中のマークについて

- 撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項などが書いてあります。
- 基本操作に加えて知っておいていただきたい事項が書いてあります。

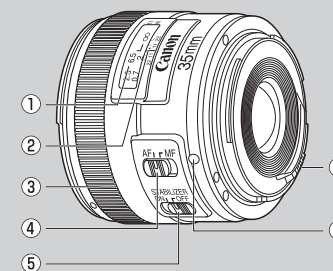
1. レンズの着脱

レンズの着脱方法については、カメラの使用説明書を参照してください。

- レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷付けないように接点を上にして置いてください。
- 接点に汚れ、傷、指紋などが付くと、接触不良や腐食の原因となることがあり、カメラやレンズが正確に作動しないことがあります。
- 汚れや指紋などが付着した場合は、柔らかい布で接点を清掃してください。
- レンズを外したときは、ダストキャップを付けてください。取り付けは、図のようにレンズ取り付け指標とダストキャップの○の指標をあわせて時計方向に回します。（図①）取り外しは、逆の手順で行います。

各部の名称

- ① 距離目盛
- ② 距離指標
- ③ フォーカスリング
- ④ フォーカスモードスイッチ
- ⑤ 手ブレ補正スイッチ
- ⑥ レンズ取り付け指標
- ⑦ 接点



2. フォーカスモードの設定

オートフォーカス（AF）で撮影するときは、フォーカスモードスイッチを AF にします。（図②）

② マニュアルフォーカス（MF）で撮影するときは、フォーカスモードスイッチを MF にし、フォーカスリングを回します。フォーカスリングは、フォーカスモードに関係なくいつでも動かせます。（図③）

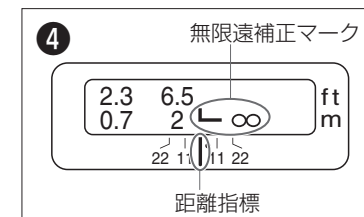
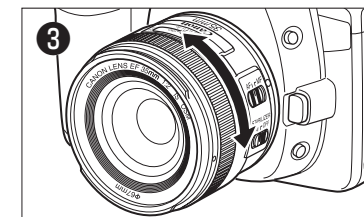
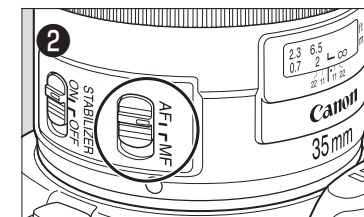
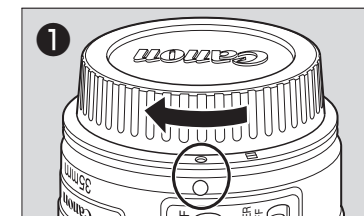
● カメラの AF モードが ONE SHOT AF のときは、AF でピントを合わせたあと、シャッター半押し状態でフォーカスリングを回すと、任意にピントを調整できます。（フルタイムマニュアルフォーカス）

3. 無限遠補正マーク

温度変化によるピント移動を補正するため、無限遠（∞）位置に余裕を持たせてあります。常温の無限遠位置は、L マークの縦線と距離指標が合うところす。（図④）

● 無限遠の被写体に MF で正確にピントを合わせる場合は、ファインダーまたは液晶モニターの拡大画像*で確認しながらフォーカスリングを回してください。

* ライブビュー撮影可能なカメラの場合



4. 手ブレ補正機能

手ブレ補正機能は、フォーカスモードが AF/MF どちらの場合でも使用できます。また撮影状況（静止した被写体の撮影、流し撮りなど）に応じて最適な手ブレ補正を行います。

1. 手ブレ補正スイッチを ON にします。(図⑤)

●手ブレ補正機能を使用しないときは OFF にします。

2. シャッターボタンを半押しすると、手ブレ補正機能が動きます。

●ファインダー像が安定したことを確認してから、シャッターボタンを全押しして撮影します。

- 被写体が動いてしまう「被写体ブレ」は補正できません。
- 大きく揺れ動く乗り物から撮影するときは、手ブレ補正効果が十分に得られないことがあります。
- 手ブレ補正機能を使用すると、通常より電力が必要なため、撮影可能枚数が少なくなります。

- 静止した被写体の撮影では、すべての方向の手ブレを補正します。
- 水平方向の流し撮りのときは上下方向の手ブレ、垂直方向の流し撮りのときは左右方向の手ブレを補正します。
- 三脚を使用した場合も支障なく撮影できますが、バッテリーの消耗を防ぐため手ブレ補正スイッチを OFF にすることをおすすめします。
- 一脚を使用した場合も、手持ち撮影と同等の手ブレ補正効果がありますが、撮影環境によっては、IS 効果が低下する場合があります。
- 手ブレ補正機能はエクステンションチューブ EF12 II、EF25 II を使用しても作動します。
- カメラのカスタム機能で AF 作動操作を変更したときは、変更後の AF 作動ボタン操作でも手ブレ補正機能が作動します。

5. レンズフード

レンズフード EW-72 は、有害光線をカットするとともに、雨・雪・ほこりなどからレンズ前面を保護します。

フードの赤い取り付け位置マークとレンズ先端の赤指標をあわせ、レンズの赤指標とフードの停止位置マークが合うまで、フードを矢印の方向に回して確実に取り付けてください。(図⑥)

フードの側面にあるボタンを押しながら、フードの取り付け位置マークとレンズの赤指標が合うまで、フードを矢印の方向に回して取り外してください。(図⑦)

収納時にはフードをレンズに逆向きにかぶせることができます。

- フードが正しく取り付けられていないと、撮影画面にケラレが生じることがあります。
- フードの取り付けや取り外しをするときは、フードの根元を持って回してください。フードの先の方を持つと変形して回らなくなることがあります。

6. フィルター（別売）

フィルターは、レンズ先端のフィルター取り付けネジ部に取り付けてください。

- フィルターは 1 枚のみ使用できます。
- 偏光フィルターはキヤノン円偏光フィルター（67mm）を使用してください。
- 円偏光フィルターの調整操作は、フードを外して行ってください。

7. エクステンションチューブ（別売）

エクステンションチューブ EF12 II/EF25 II を使用して拡大撮影ができます。撮影距離範囲と撮影倍率はエクステンションチューブ仕様表を参照してください。

正確なピント合わせのため、MF をおすすめします。

- エクステンダーは使用できません。
- クロースアップレンズは使用できません。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品のアフターサービス期間は、製品製造打ち切り後 7 年間です。なお、弊社の判断によりアフターサービスとして同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、撮影された画像を添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノン EF レンズホームページ

canon.jp/ef

キヤノンお客様相談センター

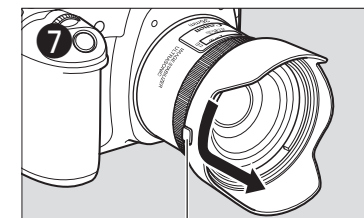
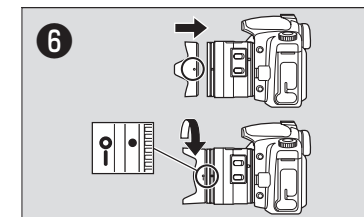
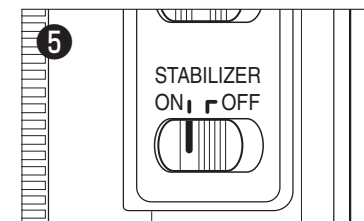
050-555-90002（直通）

受付時間（平日）9：00～20：00（土/日/祝）10：00～17：00

〈1/1～3は休ませていただきます。〉

※ 海外からご利用の方、または 050 からはじまる IP 電話番号をご利用いただけない方は 03-3455-9353 をご利用ください。

※ 受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。



ボタン

エクステンションチューブ仕様表
(別売)

		撮影倍率 (X)	撮影距離範囲 (mm) (inch)
EF35mm f/2 IS USM	EF12 II	0.60-0.36	168-197 (6.6-7.6)
	EF25 II	1.04-0.79	158-160 (6.2-6.3)

レンズ仕様一覧表

	画 角			レンズ構成	最小絞り	最大撮影倍率	最短撮影距離	フィルター径	最大径×長さ	質 量	フード	レンズキャップ	ケース
	対 角	垂 直	水 平										
EF35mm f/2 IS USM	63°	38°	54°	8-10	22	0.24x	0.24m/0.79ft	67mm	77.9x62.6mm (3.1"x2.5")	335g/11.8oz	EW-72	E-67II	LP1116